

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for Group Home Miyako.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは民家型一軒家タイプのグループホームです。閑静な住宅街にあり、ホームの前には公園やパン屋さん、周辺にはコンビニ、河川敷の遊歩道があり、暮らしやすい環境にあります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022...

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for the evaluation agency.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「住めば都」の意味合いで名付けられた「グループホームみやこ」は、公園を囲む住宅街に安住できる場所として地域に溶け込み、住民とは良好な関係を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「ゆっくり・楽しく・一緒に」を掲げて利用者様と共に、地域にとけ込んでいきたい。	開設時の職員で策定した事業所理念と系列3事業所共通の介護理念の下、出来る限り実践できるよう努めている。コロナ禍以前のライフスタイルを徐々に再開している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍収束に伴い、4年ぶりに町内会のお祭りに参加した。	目の前の公園で開催した町内会の祭りで管理者はかき氷を担当し、利用者は久し振りの賑わいを味わっている。また、公園で行われるラジオ体操への参加や資源物回収に協力し、住民からは山菜の差し入れがあるなど、地域交流も徐々に増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、地域の方々との交流をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、ホームの現状について説明している。	会議は2か月ごとに開催し、町内会役員、民生委員、知見者、地域包括支援センター職員の参加を得ている。事業所の運営状況を報告後に、意見やそれぞれの立場での情報が得られている。家族の参加要請を検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌区役所への提出物等は直接持っていき、関係を築けるよう努めている。	運営上や利用者の状況によっては、担当窓口へ直接出向いたり、電話や郵便でやり取りを行い課題等を解決しているが、内容によっては、法人の指示を仰いでいる。特に、地域包括支援センター職員とは密な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行う事例が発生していたが、会議等で情報や対応を共有し、利用者様の身体状況の変化により終了している。	止むを得ない理由が無い限り、身体拘束をしないケアを基本として利用者に寄り添っている。身体拘束等適正化委員会や研修会を定期的に開催し、身体拘束による弊害の理解を深め、スピーチロックなど不適切なケアにならないよう職員間でフォローし合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議等で高齢者虐待について話し合い、周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議等で権利擁護について話し合い、周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様等には疑問点や不安について伺い、説明させて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様等のご要望を外部の訪問診療等につないでいる。	毎月、家族あてに事業所便りと個別の手書きで利用者の日常を伝えている。面会時や電話でも、現況を報告する中で意見の聞き取りに努めている。利用者や家族から要望等が出されたときは、早急に解決策を講じる体制にある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議で話し合われた内容をスタッフに回覧している。	週に1回法人役員の来訪があり、事業所の全体像を把握している。管理者は、一般職員として勤務していた経緯もあり、職員の心情の理解に努め、就業環境の整備を運営法人と共に取り組んでいる。職員のアイデアや提案が生かされた運営が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ会議等やその他の会話などで、スタッフの要望などを聞き取りしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適宜スタッフ会議等で、ケアの技術面や知識面について意見交換している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議で他事業者の動向を聞くことがある程度で直接的な交流は少ないが、7月に弊社で主催した音楽会に何組か招待し、利用者様とともに楽しんで頂いた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	前サービスの相談員等とも連絡を取り、ご本人の要望等を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との会話の中でご要望を聞き、不安の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様が必要とされていることに優先順位を決め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とスタッフが同じ時間と空間を共有していることを意識するよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の意見を聞きながら、一緒にご本人を支えられるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が終息した事により、面会に来ていただく回数が増えた。また、ケアプランのサインを求めるとして訪問の機会を増やしている。	家族や友人、知人との面会は制限なく行われており、また、電話の取り次ぎも受け入れ、相互の安心感に繋げている。近くの店での買い物や桜並木を見ながらの散歩は職員が同行し、法要の参列や墓参りは、家族の支援で行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	3時の間食等、利用者様同士が一緒にくつろげる時間をつくるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性を大事にしたいが、うまくはっていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との関わりの中で、意向等の把握に努めている。	職員は、常に利用者が何を思い、どうしたいのかを推し量って満足感が得られるよう支援している。会話や表情、態度、仕草など申し送り時などで、情報を共有し、状況によってはケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とご家族様からの聞き取り等で、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子変化等をスタッフ間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族様との関わりや、会議等でのアイデアを反映している。	介護計画作成時は、事前に利用者や家族の意向を把握し、利用者が嬉しいと思えるような支援目標を職員間で検討している。評価や課題を分析し、具体的な目標を設定しており、映画鑑賞会や晩酌等が実現している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等を注視し記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状として難しいところがある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍が終息したことにより、地域資源を把握し利用していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族様と相談し、かかりつけ医や外部の機関につなげられるように支援している。	事業所として、定期的に内科医と歯科医による訪問診療を整備している。他科受診は、基本的に家族対応としている。週1回訪問看護師による健康管理もあり、適切な医療支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護等に利用者様のご様子を伝え、協力をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院関係者と連絡等を取り、利用者様の不利益にならないように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する可能性等、ご本人とご家族様と相談をしながら対応している。	入居時に医療連携体制と重篤時に対する取り組みを指針で説明し、同意を得ると共に意向の確認に努めている。看取り支援を行うときは、関係者と情報を共有し、その人らしい最期の時間を大切にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っていないため、計画を立てて実施していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等を実施しているが、地域との協力体制は築けていない。	年2回の避難訓練を計画し、利用者も参加して夜間帯の火災を想定した訓練が終了している。コロナ禍により自主訓練だが、今後は、地域との連携も視野に入れることを検討している。災害時備蓄品は随時用意している。	これから地震や水害を含めた火災避難訓練を計画しているので、その実行と、加えて火災や災害時の避難場所の確認と家族に周知、入浴時など、あらゆる場面を想定した対応への取り組みに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレやパット交換時は扉を閉めて、プライバシーの確保をしている。	日常の業務でも適切な支援であるように職員間でも注意を促しているが、さらに研修を行い職員の共通認識を図っている。個人に関する伝達や記録物の取り扱いも十分に配慮して行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご要望には可能なかぎり支援するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で利用者様にご不便をおかけしていることがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みにあった衣類や化粧品を用意するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを把握し、準備や片付けを手伝って頂いている。	献立はその日にある食材を使い、利用者の好みや味付けをして完食できるよう努めている。朝ごはんはパンを用意し、味噌汁は2種類の具材を入れ、麺類や炊き込みご飯、時には仕出しのお弁当、誕生日は要望のラーメン等で変化をつけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の調整などで、利用者様が食べやすくなるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は必ず口腔ケアと支援している。また訪問歯科に依頼し、診療してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で立位をとれる利用者様には、トイレでの排泄を支援している。	排泄は失敗があっても布下着やトイレに自力で行きたいなどの要望を受け入れて支援している。利用者の状態によってはベッド上での支援もあるが、声かけや誘導を行いトイレでの排泄を基本としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の支援や、下剤の処置等で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様にはご不便をおかけしている。	日曜日以外は毎日入浴できる態勢にあるが、日中帯で週2回を基本として支援している。足湯にシャワー浴もあるが、出来ない部分を補っている。入浴中は歌や本音を聞くことができ、情報は職員と共有し介護計画に反映して、利用者の思いを叶えることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後からなどに居室や居間のソファで休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は必ずスタッフ2人にて、目視確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の誕生日等には希望の品をお出しするように努め、適宜カラオケ等を実施し気分転換を計っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の要望にお応えできるよう支援に努めている。	天気の良い日は、近所の花畑を眺めながらの散歩や事業所前にある公園を散策、花壇の水やりなどで日光浴ができています。地物市場でソフトクリームを楽しみ、秋には紅葉狩り、系列事業所の音楽会に出かけ、程よい刺激になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している方には、買い物にご同行させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話の対応の支援をさせて頂き、スマホのバッテリー残量確認等支援させて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には四季のイベントを感じる事ができる壁紙を設置し、居間ではソファでくつろいで頂いている。	職員は、利用者の喜ぶ姿が見たいと、新設のまちなかの水族館をイメージした作品や季節飾りを利用者と一緒に作って展示している。特に、一日の大半を過ごすリビングが、利用者にとって心地良い居場所になるよう環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席でそのまま過ごして頂いたり、ソファに座って頂いたりご本人の自由にして頂けるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族様と相談し、レイアウトしている。	居室には、収納棚が備えられている。利用者と家族が用意したタンスやテレビなどの生活用品や大切な仏壇や位牌、家族写真、年賀状、レクでの作品、自作の刺繍を傍らに置いてあり、安心感ある設えになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様にはエレベーターを使用して頂き、安全な移動を支援している。		